

みんなで食べるとおいしいね

認定こども園阿久根めぐみこども園（鹿児島県）

認定こども園阿久根めぐみこども園は、鹿児島県北西部の東シナ海沿岸に位置する阿久根市にあります。自然豊かな園庭の中で子供たちは毎日遊びを中心とした生活を送っています。

「みんなで食べるとおいしいね」という食育への思いをかたちにするため、昼食は3歳以上の子供たちがランチルームで毎日一緒に食事をしています（新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一斉に食べる人数や滞在時間を考え直し、グループに分かれて時間をずらして給食を食べ始めるよう工夫したところ、楽しく食べることは継続しつつも、声が大きくなりすぎるといった課題が少し解消されました。）。



イワシの丸干しを食べる園児

昔から、阿久根市の沖合ではイワシがよく獲れます。それを使ったイワシの丸干しが地域の味にもなっていますが、最近では食生活の変化から家庭の食卓にあがることがなくなってきました。そこで、地元の生産者の協力を得て、定期的に給食で提供するようにしました。噛めば噛むほど味が出るイワシの丸干しを子供たちは大好きになり、卒園児の中には「小学校ではあのイワシが出ないから

嫌だ。」といった声も上がるほどになりました。また、ポンタンやデコポンといった柑橘類の栽培も盛んで、地域の民家では様々な柑橘類の木を庭先に植えていることも珍しくありません。冬になると職員や保護者が持ち寄った様々な柑橘類を大きさ順に並べる「柑橘列車」が現れます。年々種類が増え、今では20種を超



柑橘列車

えるようになりました。しばらく飾り、食べ頃になると、みんなで皮をむいて食べます。みんなと一緒に皮むきも楽しく、皮が厚いポンタンも先生と一緒に必死になってむきます。家庭の食卓にあがる機会が減っても、園の給食で食べることができれば、子供たちには地域の味の記憶が残るだろうと思います。さらに、プランター等を活用して、子供の目につく園庭の一角で野菜を作る菜園ゾーンを充実させています。子供たちは種や苗を植えるところから関わり、中には水やりも熱心に取り組んでくれる「農場長」のような存在も出てきました。実がつき始めると、いつ食べられるのかと足繁く菜園をのぞき、興味を示しています。そして、収穫も楽しみです。食



野菜の生育を観察する園児

べることも楽しみです。園庭の一角で採れた野菜を焼いていると、匂いに誘われて子供たちが集まってきます。あまり野菜が得意でない子供も、このときは食べてみようとしています。改めて、野菜を食べたくなる環境をどう作っていくかが重要だと気付かされます。

令和元（2019）年度の取組を通じて、保育の中に「食育」の意識をより高めていき、豊かな食卓を家庭に求めるだけでなく、園で日々の遊びと生活の中で楽しい、おいしい、いい匂い、もっと食べたいという気持ちを増やしていくことが大事だと感じています。